

検査値の見方

2019/4/1

日本赤十字社和歌山医療センター 健診課

略語		検査名称	基準値	説明	
血液学的検査	WBC	白血球数	33-86 × 10 ² / μl	体の害になる細菌や異物を食べたり、病気に対する抵抗力を強めたりする働きがあります。そのため、感染による炎症が起こると、白血球がどんどんつくられ敵に備えます。	
	RBC	赤血球数	男 435-555 × 10 ⁴ / μl 女 386-492 × 10 ⁴ / μl	血液の主な細胞成分で、その中に含まれるヘモグロビンが酸素の運搬役をしています。赤血球が減る貧血は、全身に送られる酸素の量が減ります。逆に増えすぎると血液が濃くなって流れにくくなり、血管が詰まりやすくなります。	
	Hb	ヘモグロビン濃度 (血色素量)	男 13.7-16.8g/dl 女 11.6-14.8g/dl	赤血球の中に含まれる色素で、酸素を体内に運ぶ蛋白質です。	
	Ht	ヘマトクリット値	男 40.7-50.1% 女 35.1-44.4%	一定量の血液の中に、どれくらいの割合で赤血球が含まれているかを表したものです。	
	MCV	平均赤血球容積	83.6-98.2fl	貧血の場合、その種類の判定の目安となります (赤血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値から算出したものです)。	
	MCH	平均赤血球ヘモグロビン量	27.5-33.2pg		
	MCHC	平均赤血球ヘモグロビン濃度	31.7-35.3%		
	PLT	血小板数	15.8-34.8 × 10 ⁴ / μl	出血傾向を調べる検査です。出血したときに血を止める働きをしています。減少すると出血しやすくなり、逆に増加は血栓を起こしやすくなります。	
	白血球像	NEUT	好中球	50.0-60.0%	白血球 100 個のうち、各白血球が占める割合をパーセントで表したものです。それぞれに特有の働きがあり、病気によって増減する分画が違ってきます。
		E0	好酸球	2.0-4.0%	
BASO		好塩基球	0.0-1.0%		
LYMPH		リンパ球	35-40%		
MONO		単球	2.0-7.0%		
生化学検査	TP	総蛋白	6.5-7.9g/dl	腎臓や肝臓の機能を評価する際のスクリーニング (ふるいわけ) 検査です。	
	Alb	アルブミン	3.9g/dl 以上	栄養状態、肝機能障害を推測できます。総蛋白の 50~70% を占めています。	
	A/G	アルブミン対グロブリン比	1.00-2.00	アルブミンとグロブリンの比率から肝機能、腎機能の障害や蛋白代謝の異常が分かります。	
	ALP	アルカリフォスファターゼ	106-322IU/l	肝臓・胆道疾患、骨疾患の指標となります。また、子供の発育時期や妊娠時などにも高値となります。	
	AST (GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	30IU/l 以下	心臓、肝臓、筋肉などに多く含まれる酵素で、これらの臓器の障害の指標となります。	
	ALT (GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ	30IU/l 以下	肝臓の障害の指標となります。	
	LDH	乳酸脱水素酵素	124-222IU/l	多くの臓器に含まれる酵素で、細胞の変性や破壊を反映します。	
	γ-GTP	γ (ガンマ) -グルタミルトランスペプチダーゼ	50IU/l 以下	肝臓・胆道疾患の指標となります。アルコール性肝障害でも増加します。	
	ChE	コリンエステラーゼ	男 240-486IU/l 以下 女 201-421IU/l 以下	主に肝臓の機能を反映し、重症度の指標となります。	
	T-Bil	総ビリルビン	0.4-1.5mg/ml	肝臓・胆道疾患で増加し、黄疸の指標となります。	
	T-CHO	総コレステロール	142-248mg/dl	脂質の一種で、血管の強化・胆汁成分・ホルモンの材料として重要です。しかし、多すぎると動脈硬化症など生活習慣病の原因になります。	
	TG	中性脂肪	30-149mg/dl	脂質の一種で、食事として摂取され、余ったエネルギーは皮下脂肪として蓄えられます。臓器や組織の維持に役立っていますが、多すぎると生活習慣病の原因になります。	
HDL-C	HDLコレステロール	40mg/dl 以上	善玉コレステロールと呼ばれ、血管内壁にこびりついた LDL コレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぐ働きがあるといわれています。		

貧血の有無を知る目安となります。

	略語	検査名称	基準値	説明	
生化学検査	LDL-C	LDLコレステロール	60-119mg/dl	悪玉コレステロールと呼ばれ、動脈硬化の危険因子です。コレステロールを各組織に運搬する重要な役割もあります。	
	Non HDL-C	Non-HDL コレステロール	90-149mg/dl	動脈硬化のリスクを総合的に管理できる指標です。	
	BUN	尿素窒素	8-20mg/dl	体内でエネルギーとして使われた蛋白質の老廃物で、腎臓から排泄されます。腎臓の機能を知るための指標です。	
	UA	尿酸	2.1~7.0mg/dl	細胞の新陳代謝によってできる老廃物で、腎臓から排泄されます。痛風や腎結石の原因になります。	
	CRE	クレアチニン	男 1.0mg/dl 以下 女 0.7mg/dl 以下	体内でエネルギーとして使われた蛋白質の老廃物で、腎臓から排泄されます。腎臓の機能を知るための指標です。	
	eGFR	推定糸球体濾過率	60ml/min/1.73㎡以上	腎臓の機能を知るための指標です。	
	Na	ナトリウム	138-145mEq/l	体内の酸やアルカリのバランス状態を反映します。水分の調節がうまくいかなかったり、疾患などによってこれらのイオンの	
	K	カリウム	3.6-4.8mEq/l	バランスが崩れると様々な症状を引き起こします。	
	Cl	クロール	101-108mEq/l		
	Ca	カルシウム	8.8-10.1mEq/dl	大部分が骨に蓄えられており、内分泌疾患や骨疾患・腎障害により変動します。	
	Fe	血清鉄	40-188 μg/dl	酸素を運搬するヘモグロビンの一部で、鉄欠乏状態などの鉄代謝異常を推測できます。	
	AMY	アミラーゼ	44-132IU/l	膵臓や唾液腺から分泌される酵素で、膵臓疾患の指標です。	
	Glucose	空腹時血糖	99mg/dl 以下	人体の維持に重要なエネルギーであるブドウ糖の量を調べます。	
	HbA1c (NGSP値)	グリコヘモグロビン (ヘモグロビンA1c)	5.5%以下	ヘモグロビンと結合したブドウ糖で、過去1~2ヶ月の血糖の平均値を反映しています。	
CRP	C反応性蛋白	0.3mg/dl 以下	炎症や組織の障害により増加する蛋白質のため、炎症の指標となります。		
BNP	B型ナトリウム利尿ペプチド	18.5pg/ml 以下	心不全の診断に有用です。		
免疫血清検査	TSH	甲状腺刺激ホルモン	0.500-500 μIU/ml	甲状腺ホルモン分泌の調整を行います。	
	FT4	遊離サイロキシン	0.90-1.70ng/ml		
	腫瘍マーカー	AFP	α (7N7) -フェト蛋白	10.0ng/ml 以下	腫瘍マーカーの一種です。喫煙や炎症・肝炎など腫瘍以外の要因でも変動します。
		CEA		5.0ng/ml 以下	
		CA19-9		37.0U/ml 以下	
		PSA (男)	前立腺特異抗原	4.00ng/ml 以下	腫瘍マーカーの一種で、前立腺で特異的につくられて分泌されます。
		CA125 (女)		35.0U/ml 以下	腫瘍マーカーの一種で、卵巣がんの診断に有用です。
		シフラ		3.5ng/ml 以下	腫瘍マーカーの一種で、特に肺扁平上皮がんの診断に有用です。
		NSE	神経特異エノラーゼ	男 12.0ng/ml 以下 女 16.3ng/ml 以下	腫瘍マーカーの一種で、神経芽細胞腫、小細胞肺癌診断に有用です
	RF	リウマチ因子	15.0IU/ml 以下	リウマチ性疾患の診断に有用な検査です。	
	HBs抗原		(-)	B型肝炎ウイルスの感染の有無やその状況を反映します。	
HBs抗体		(-)			
HCV抗体		(-)	C型肝炎ウイルスの現在または過去の感染の有無を反映します。		
ヘリコバクター・ピロリ抗体		10U/ml 以下	血液中のピロリ菌の抗体を調べる検査です。		
尿検査	尿比重		1.005-1.025	腎臓での尿の濃縮や希釈の能力を知ることで、腎臓機能に異常がないかの目安とします。	
	尿PH		5.0-7.0	酸性かアルカリ性かを調べ、呼吸・腎臓機能異常を推測します。	
	PRO	尿蛋白	(-)	腎臓や尿路系に障害があると陽性になります。健康人でも出現する場合があります。	
	GLU	尿糖	(-)	血糖値が一定限界を超えると、腎臓から漏れ出てきます。	
	BLD	尿潜血反応	(-)	腎臓や尿路系に障害があると、赤血球が出現します。	
尿検査	URO	尿ウロビリノーゲン	(±)	肝臓・胆道系障害のスクリーニング (ふるいわけ) 検査です。健康な人でもわずかに出ています。	
	沈渣	赤血球		5 個以下 /HPF	腎臓や尿路系の病気の診断に有用です。
		白血球		5 個以下 /HPF	
		上皮細胞		10 個以下 /HPF	
		円柱			
		細菌		(-)	
便	便ヒトヘモグロビン		(-)	消化管出血のスクリーニング (ふるいわけ) 検査です。	